雪の駅に
人生を乗り換えて
青葉の駅で
愛とすれ違った――
不可思議にゆれ動く
四つの女ごころ

駅 STATION

えき

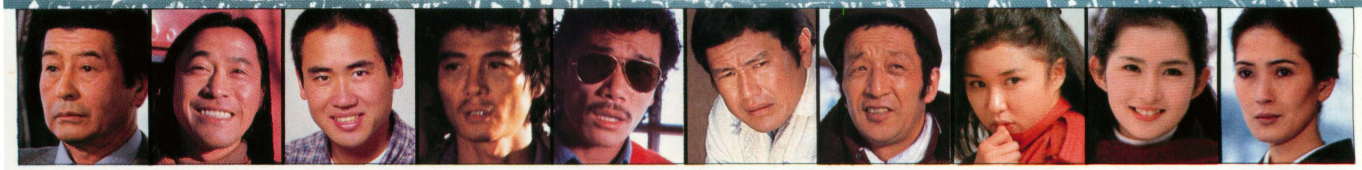
高倉健
倍賞千恵子
いしだあゆみ
古手川祐子
烏丸せつこ
田中邦衛
竜雷太
宇崎竜童
大滝秀治
室田日出男
北林谷栄
根津甚八
永島敏行
武田鉄矢
池部良

脚本■倉本聰
撮影■木村大作
音楽■宇崎竜童

監督作品 降旗康男

製作■田中壽一
録音■美術■樋口幸男
田中信行
照明■望月英樹
製作補■小倉斉
製作■株式会社東宝映画
製作協力■田中プロモーション
配給■東宝株式会社

東宝



192233－202

11月7日(土)より
東宝系大公開

渋谷宝塚 (461) 8779	新宿東宝ビレッジI (351) 3128	池袋東宝 (971) 8796	浅草東宝 (844) 3141	吉祥寺アカデミー東宝 0422(48)6521
上野東宝 (831) 3431	新宿コマ東宝 (202) 0131	江東劇場 (631) 3121	カマタ宝塚 (732) 7771	八王子東宝 0426(22)0211

有楽座 (591) 5351

いま、発車のベルが響く——日本映画の新しい名作！

キャスト

三上　英次……高倉　健

〈1968年1月　直子〉

三上　直子……いしだ　あゆみ
相　　場……大滝　秀治
中川警視……池部　良

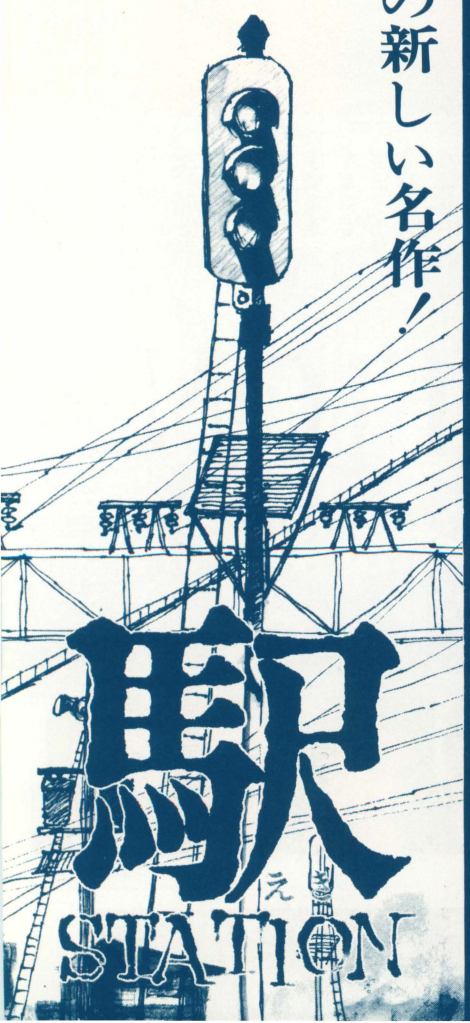
〈1976年6月　すず子〉

吉松すず子……烏丸せつこ
吉松　五郎……根津　甚八
木下　雪夫……宇崎　竜童
三上　昌代……北林　谷栄
　　道夫……永島　敏行
　　冬子……古手川祐子
菅　　原……田中　邦衛
小川刑事……竜　　雷太

〈1979年12月　桐子〉

桐　　子……倍賞千恵子
森岡　　茂……室田日出男
列車の客……武田　鉄矢

製作■株式会社東宝映画
製作協力■田中プロモーション
配給■東宝株式会社



■解説

何気ない日常性の中に、鮮かな人生模様を構築してゆくことにかけては、現代屈指の脚本家、倉本聰。この「駅」は、その倉本聰が賞讃してやまない俳優・高倉健のために、特別に書き下したオリジナル・シナリオである。

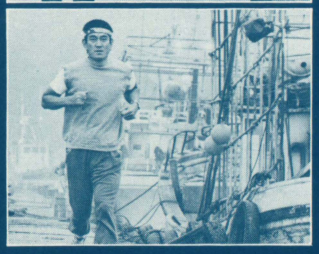
主人公は札幌の刑事。オリンピックの選手に選ばれる程の射撃の腕前。何度も凶悪犯を追いつめ、そのつど道警本部より表彰される敏腕刑事である。しかしその名誉とは裏腹に、事件の数々は人間の孤独や寂しさを容赦なく露呈させてゆく。追う者とてその例外ではなかった。「駅」は、この刑事の10余年間にわたる人生の軌跡を通して、男と女の出会いと別れを豊かな映像感覚で描写してゆく。

物語には4人の女性が重要な役柄で登場する。たった一度の過ちを弁解もせず、一人息子を抱いて主人公のもとを去る妻の直子。捨てられるとはわかっていながら、愛する男のために犯人の兄を裏切る娘、すず子。愛した主人公の刑事に、昔の恋人を目の前で殺されてしまう飲み屋の女、桐子。愛した男とではなく、親族の勧めた見合いの相手と結婚してしまう主人公の妹、冬子。この4人の女性達の厳しく必死な人生ドラマが、主人公の刑事の生きざまをも鮮明に浮かび上がらせる。

〝番外地シリーズ〟で高倉健の持つ男のリリシズムを的確に描いてみせた降旗康男監督がメガホンを取り、撮影は「八甲田山」「復活の日」の木村大作が担当している。パナビジョン・カメラを通して、北海道の厳冬と盛夏が鮮明な映像でとらえられている。音楽は、この作品に重要な役柄で出演している宇崎竜童が担当。

出演者は高倉健のほか、倍賞千恵子、いしだあゆみ、烏丸せつこ、古手川祐子、根津甚八、永島敏行、田中邦衛、室田日出男、武田鉄矢、大滝秀治、竜雷太、池部良など多彩な顔ぶれ。

STATION



■物語

雪の降り続く北海道の銭函駅で、三上英次は妻の直子と別れた。警察官でありオリンピックの射撃選手の英次は、妻のたった一度の過ちを許さなかった。静かに離婚を承知した直子は、動き出した汽車のデッキで、英次に向って笑い、そしてお道化て敬礼した。しかしその瞳には涙があふれていた。

英次の上司でありコーチでもある相場が、検問中に英次の目の前で射殺された。犯人は連続警官射殺犯の〝指名22号〟と判明した。英次は犯人を追跡したかった。しかし、オリンピックのことだけを考えろと、捜査からはずされてしまう。

9年後、妹の冬子が結婚した。なぜか愛する義二とではなく、伯父が勧めた見合いの相手とであった。英次はそんな冬子の心にとまどいを覚えた。

選手生活を引退した英次は、連続通り魔事件を追っていた。犯人として浮びあがった吉松五郎を捕えるため、妹のすず子を見張っていた。すず子は少し頼りなげだが嘘はついていない、と訊問にあたった刑事は報告してきた。男にだまされ、男にもらった金で遠くまで子供を堕しに行ったすず子は、その男、雪夫が好きだった、しかし町のチンピラである雪夫にとって、彼女は単なる欲望のはけ口でしかなかった。英次が刑事である事を知った雪夫は警察に協力を申し込んだ。雪夫は結婚を口実に、すず子から兄五郎の居場所を聞き出した。尾行した英次達の前に五郎が姿を現わしたのは、夜明け前の上砂川駅だった。すず子の悲鳴が、暗い構内にこだました。

その後も英次は射撃の腕を見込まれ、殺人犯や凶悪犯など非情な職務が続いた。しかし彼の心の中でやり切れない想いが生まれ始めていた。

3年後、英次は久しぶりに故郷の雄冬で正月を迎えたかった。増毛駅に降りると、海が荒れて連絡船は欠航していた。欠航で所在無い英次は、街の赤提灯「桐子」に入った。桐子は客も来ない暮れの30日、たったひとりで店を開けていた。ふたりの間にしんみりとした時間が流れた。大晦日、ふたりは留萌で映画を観た。他愛ないドラマに桐子は子供のように喜んだ。肩を寄せ合って歩く二人は、その帰り、自然に結ばれた。しかし、ささやかな幸せだけを願う二人には、悲情な運命が待ち受けていた。

STATION